令和元年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間)最終)

<u> 広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校</u>

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	│ 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	(貫)義務教育 9年間を見通し た学力を育成す る	教師及び生徒の 言語能力・ICT活 用力の向上	「話型」とICTを活用した研究授業を、予定通り行うことができた。「話型」とICTの視点を明確にした学習指導案(略案)と、その視点に絞って、授業観察者が記述できるシート及び授業評価シートを活用することができ、授業者も授業観察者も、意識的に授業改善に取り組めるようになった。一方で、「自分の考えを積極的に伝えている」は60%台にとどまり、課題が見られる。これは、ICTの活用に比べて話型の活用がまだ十分でないことや、生徒が自分の考えを説明する場面の設定が少ないことも原因として考えられる。	教師の発問の仕方や生徒のつながり発言等について、「話型」を意識した授業展開の充実を図るよう各教科で工夫し、指導の定着に取り組む。また、ICTの活用については、生徒が主体的に意見を表明する場面を設定したり、意見をまとめたりする活動を取り入れた授業展開になるよう工夫していく。
		横断的・総合的なカリキュラムデザインおよび評価のエ夫による学びの質の向上	教科及び総合的な学習の時間において、これまで 培ってきた「課題発見・解決学習」の単元や貫きカリ キュラムによって全体的には高い数値となってい る。しかし、「調べたことを図、グラフ、表にまとめる」 について昨年度よりも大幅に減少している。これは、 1学期に行った各教科での「課題発見・解決学習」 がまだほとんど実践していないことや、普段の授業 の中においても情報収集したことを工夫してまとめ ていくという場面の設定が十分でないことが影響し ていると考える。	これまで開発した「課題発見・解決学習」の貫きカリキュラムを計画に沿って実践していくとともに、来年度に向けてブラッシュアップに取り組む。また、各教科の普段の授業の中で情報収集したことを整理・分析し、自分の考えを伝え合う場面を設定していく。防災プログラムについては、貫きカリキュラムの作成を小中一貫教育の研修会の中で作成を進める。
**	礼節と挑戦心を 身につけ, 体力 づくりに主体的 に取組む生徒を 育成する	生徒の相互指導 能力の向上によ る学校の伝統文 化の継承・発展	生徒会を中心に自主的な活動が行われており、昨年の同時期よりもポイントは上昇している。(66%→73%)しかし、2年生のポイントの減少と3年生は、昨年に比べ上昇しているが、肯定的な評価60%にとどまっている。をしていない。これは、自分たちの活動を自分たち自身が肯定的にとらえきれていないからではないかと考えられる。	2学期に大きな行事があり、その成功に向けての自主的な活動を通して、自己 肯定感を高めるような取組を行う。
		不登校・低学力 等の課題への組 織的な対応能力 の向上	・スマホ、タブレット、ゲーム機等をほとんどの生徒が持っており(95%)、一部生徒がゲーム、動画等に触れる時間が長時間になっていることで、睡眠時間や家庭学習の時間の確保が困難になっている。・不登校生徒については、学年を中心に家庭としっかり連携できていることで、減少している(0人)。	・生活リズムのできていない生徒には、アメニティー環境推進委員会や担任を中心に、生徒との面談や家庭との連携をしっかり図るとともに、通信会社・警察と連携した「考えるスマホ教室」を参観日に開催し、生徒・保護者への啓発を図る。 ・不登校については、日々の生活ノートや面接などでその兆しを把握し、アメニティー環境推進委員会を中心に全教職員で対応していく。
*	(貫)地域に貢献し活力を生み 献し活力を生み 出す学校をつく る	地域の人材活用 及び生徒の地域 社会で貢献・協 働できる場の充 実	5月31日に各自治会長を交えて、土砂災害を想定した垂直避難訓練を実施した。その後、地域の方とグループを作り、垂直避難場所の3階の運営について協議。さらに、「第1回広南避難プログラム開発会議」を実施し、生徒会、自治会、教職員で非常食など地域で協力できることについて検討した。直接生徒と地域で協働する場を設定できた。生徒は、3学年が中心となり防災を啓発する創作劇(地域貢献)に向けて準備を進めている。保護者においては、第8回広南学園運動会のPTA種目を工夫し、敬老の方も含め誰もが参加できる工夫を行った。また、参観日で生徒発表に励ましのコメントをもらった。	今後も、地域の専門性を生かしながら、第2回広南避難プログラム開発会議を実施し、具体的な校舎3階の避難所運営について検討するなど、地域も学校もやりがいを持てる場を設定する。総合的な学習の時間を中心に、地域の方とともに貢献する場を設ける。1年生:落語で皆を笑顔にする地域貢献、2年生:起業企画で地域貢献、3年生:創作劇で地域貢献(防災啓発)、2・3年生:「匠の時間」で地域講師を招く。PTAは「バザー」で協働・貢献を図る。
		活動の充実に向けた,子供と直接向き合う時間の確保(業務改善)	教職員のタイムマネジメント力の向上については、各教職員が仕事の優先順位や見通しを持って職務を行っているため、月80時間を越える教職員はいない。 (H30 1人) スクラップアンドビルドについては、出張を除き、放課後の校内研修や会議を月2回と必要最低限度にしている。多くの研修は、職員朝会の1分間スピーチを活用しテーマを決めて短時間であるが継続的に実施している。そのため、放課後の部活指導に参加することができている。	逆に、生徒と直接向き合い関わる時間を確保する。 PTA活動については、11月のPTC活